

平山 郁夫(学長)

玄奘三蔵に捧ぐ『平山郁夫 薬師寺玄奘三蔵院大壁画』

すでにいろいろな場で書き綴ってきたことだが、私が画家として本格的なスタートをきることができたのは、中国の唐代の高僧・玄奘三蔵の求法の旅を描いた「仏教伝来」からである。1959年のことで、私は29歳であった。その頃の私は、広島での被爆の後遺症や実家の経済事情の悪化に加え、自分自身、画家として歩むべき道を見失っているような状態で、すべてに自信喪失といった有様であった。そんな時に出会ったのが、玄奘三蔵であった。私は玄奘三蔵を描くことによって、自分の進むべき道を見出したといつてよい。「仏教伝来」をきっかけに私の玄奘三蔵の旅の追体験が始まった。その旅はシルクロードの旅でもあり、いつしか130回を超えた。そして、この地をテーマにした多くの作品を残すことができた。シルクロードを歩くたびに、私は玄奘三蔵が行った苦難苦行の道に想いを馳せる。私は、いつか必ず画業を通して、玄奘三蔵の恩に報いたいと思った。2000年12月31日、21世紀を目前にした薬師寺玄奘三蔵院に大唐西域壁画を描き、完成させることが出来た。その背後には多くの人々の励ましと協力があった。私は、本書を玄奘三蔵に捧げると共に、ここまで導き賜ったことに、これからも作品を通して感謝の意を捧げることを誓う。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)